

令和7年度
No.5
12月10日

全連小速報

全国連合小学校長会事務局
東京都港区西新橋1-22-14
電話 03-3501-9288
発行人 会長 松原 修
編集人 広報部長 萩久保剛正

「志 多様な他者と協働 次代を創る人財」

第77回全連小研究協議会福岡大会成功裡に終わる

令和7年10月16日(木)・17日(金) 福岡サンパレス及び福岡国際会議場

第77回全国連合小学校長会研究協議会が、10月16日(木)・17日(金)の2日間、自然や伝統文化が豊富な福岡県において、サテライト会場(福岡国際会議場)を含め、全国から約2,800名の参加を得て、盛大に開催された。

大会1日目は、開会式・全体会の後、13の分科会に分かれて、「校長の役割と指導性」を究明するため、小グループでの仲間のつながりを意識した協議が活発に行われた。2日目には、チャレンジ精神及び困難に立ち向かう心として大切な「志す」を演題に、聖家族贖罪聖堂彫刻家 外尾悦郎氏による講演が行われた。開会式では、福岡市市長 高島総一郎氏(代読 副市長 中村英一氏)による歓迎を受け、閉会式では、次期北海道大会へと「つながりを大切にした学び」のバトンが渡された。

大会主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る

日本人の育成を目指す小学校教育の推進

～志をもち 多様な他者と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進～

開会式

- 1 開会のことば 大会副会長 八木宣行
- 2 国歌斉唱
- 3 あいさつ 大会会長 松原 修
大会実行委員長 松本 剛
- 4 祝辞 文部科学大臣 あべ俊子様
(代読 文部科学省初等中等局主任視学官 田村 学様)
福岡県知事 服部誠太郎様
(代読 福岡県副知事 生嶋亮介様)
福岡市長 高島総一郎様
(代読 福岡市副市長 中村英一様)
- 5 来賓紹介 大会実行副委員長 清水浩一

会長あいさつ(要旨)

大会会長 松原 修
実りの季節を迎えるこの折、全連小研究協議

会福岡大会が盛大に開催されることを、全国の小学校長を代表して心より感謝申し上げる。



本大会は、全国各地で学校経営の舵取りを担う校長が一堂に会し、教育の在り方を共に考える貴重な機会である。互いの実践から学び、語り合い、新たな視点を得るとともに、地域や環境の違いを超えて交流を深め、互いに高め合う場となることを期待している。ここで得た学びを各地へ持ち帰り、教育の一層の充実と発展に結び付けてほしい。サテライト会場と本会場とで心を一つにしてご参加いただきたい。

少子高齢化や国際社会の流動化、生成AIの急速な進展など、社会構造そのものが変容しつつある。このような時代において、子どもたち

がどのような力を身に付けるべきかを問い合わせることこそ、教育に携わる者の使命である。本大会の主題は、まさに時代の要請に応える教育の本質を示しており、第72回京都大会から掲げられ、コロナ禍を経ても「学びを止めない」という強い信念のもと、石川、島根、東京、徳島と受け継がれ、今回の福岡大会へとつながってきた。先人たちの熱意と努力を受け継ぎ、本大会を更に実りあるものとしたい。

令和7年9月、中央教育審議会教育課程企画特別部会での論点整理では、主体的・対話的で深い学びの実装、多様性を個人や社会の力に変える教育の推進、一人一人の意欲を高める学びの在り方、さらに勤務環境の整備による実現可能性の確保などが示されている。私たち校長は、これらの方向性を踏まえ、今、成すべきことを見極め、着実に実践していかなければならない。これこそが校長のリーダーシップの真価である。本日は、文部科学省初等中等教育局主任視学官田村学氏をお迎えし、最新の教育動向を共有し、次期学習指導要領の実現に向けた歩みを共に進めていきたい。

「変わらないために変わる」という言葉がある。時代がいかに変化しようとも、小学校教育において育成すべき基礎的・基本的な資質や能力の本質は変わらない。全ての子どもが、誰一人取り残されることなく、確かな力を身に付けられるよう、学びの在り方を不斷に見直し、更新していくことが、小学校教育の使命である。その実現のためには、校長のリーダーシップが不可欠である。教職員一人一人の力を引き出し、学校全体の力を最大化すること、地域や家庭と連携し、子どもを中心とした教育環境を整えること、そして、子どもたちの可能性を信じ、挑戦を後押しする学校文化を築く。これらを実現することこそ校長の責務であり、誇りである。本大会での学びと出会いが、各校の学校経営に新たな風を吹き込み、子どもたちの笑顔と成長につながることを心から願う。

実行委員長あいさつ（要旨）

大会実行委員長 松本 剛

近年、自然災害の多発や国際情勢の不安定化など、社会の先行きを見通すことがますます困難な時代となっている。教育現場においても、ICTの活用、多様性の尊重、働き方改革など、

新たな課題への対応が次々と求められている。

「不易と流行」、すなわち、変わらぬ教育の本質と、時代に応じた柔軟な対応を両立させていくことが、今ほど求められている時はない。このような変化の激しい時代にあってこそ、教育の本質を見失うことなく、時代に応じて柔軟に対応していく姿勢がこれまで以上に求められている。私たち小学校長の使命は、子どもたちが未来に希望をもち、自らの意思で社会を切り拓く力を育むことである。すなわち、次代を担う「社会の創り手」としての資質を育てることが、学校教育の根幹にあると確信している。この理念のもと、本大会での副主題について、今日の教育課題や学校経営の在り方に真正面から向き合うものとして、極めて意義深いテーマを掲げた。午後からの各分科会において全国の校長による実践的な協議と学びを深める機会を設け、特に、26地区の皆様による研究発表に加え、日本教育経営学会及び福岡県教育委員会の先生方を指導助言者としてお迎えし、実践と理論の融合を図る充実した内容としている。これらの協議を通して、今後の学校経営に生かせる多くの知見と気付きが得られることを期待している。また、2日目の全体講演では、スペインでサグラダ・ファミリアの彫刻を手がける彫刻家 外尾悦郎氏を講師にお迎えし、「志す」をテーマにご講演をいただく。外尾氏は、長年にわたり信念と情熱をもって創作活動に取り組まれ、その生き方自体が「志をもって生きる」ことの象徴である。教育に携わる私たちにとって、その言葉と姿勢から深い示唆と勇気をいただけ、かけがえのない機会になると確信している。

本大会が、福岡の地から、未来を担う子どもたちの成長と、全国の校長が互いに学び合い、励まし合い、明日への新たな一歩を踏み出す契機となることを心より願う。

文部科学大臣祝辞（要旨）

文部科学大臣 あべ俊子 様

（代読 文部科学省初等中等教育局主任視学官 田村 学 様）

第77回全国連合小学校長会研究協議会がここ福岡で盛大に開催されることを心からお慶び申し上げる。また、ご参会の皆様におかれましては日



頃から小学校教育の充実・発展に多大なるご尽力をいただいていることに感謝申し上げる。

さて、生成AIの発展などに象徴される将来の予測が困難な時代においては、これまでの日本型教育の良さを受け継ぎながら令和の日本型学校教育を持続可能な形で継承・発展させることが重要である。一方、現在の教師を取り巻く環境は非常に厳しく、我が国の未来を左右しかねない危機的状況にあると言っても過言ではなく、教職の魅力を向上させ、優れた人材を確保することが不可欠である。文部科学省としては働き方改革の加速化、教師の待遇改善、学校の指導・運営体制の充実を総合的に推進していく。また、これから時代にふさわしい学習指導要領の在り方について、より質の高い、深い学びを実現し、多様な子どもたちを包摂する柔軟な教育課程を編成できるようにすると同時に、教師と子どもの双方に余白を生み出すことができるよう中央教育審議会の議論を踏まえながら検討を進めていく。そして、それらの施策の実現に向けては、全国連合小学校長会をはじめとする関係の皆さんとの緊密な連携が必要になる。このように、学校教育を多様な状況が取り巻く中で、本大会がこの主題のもとに開催されることは、大変意義深いものであると考えている。

本日ご参会の皆様におかれましては、日頃の教育活動の成果の普及・共有や、各分科会での熱心なご議論を通じて、学校教育の質の一層の向上を目指すとともに、引き続きリーダーシップを發揮いただくことで、小学校教育が充実・発展することを心から期待している。結びに全国連合小学校長会のますますのご発展と、皆様方の一層のご活躍を祈念いたしまして、私からの挨拶とする。

福岡県知事祝辞（要旨）

福岡県知事 服部誠太郎 様

（代読 福岡県副知事 生嶋亮介 様）

第77回全国連合小学校長会研究協議会福岡大会の開催にあたり、県民を代表して、全国からお集まりの皆様を心から歓迎申し上げる。全国の小学校長会の皆様におかれましては、日々、学校



経営という重責を担われ、子どもたちの健やかな成長のために献身的な努力を重ねられていることに、深く敬意を表する。また、全国連合小学校長会におかれましては、長年にわたり、学校教育の質の向上に向けた調査研究や実践の蓄積を通して、我が国の教育の充実と発展に多大な貢献をされ、その不断の努力と成果に対し、改めて敬意を表する。

今日、社会の構造変化が急速に進む中で、子どもたちが自らの可能性に気付き、主体的に学び、困難に立ち向かう力を育むことが一層重要なっている。知識や技能の習得にとどまらず、勤勉さや協働する力、そして自律的に成長するための人格的資質を涵養することこそ、これらの教育の使命であると考えている。

本大会の主題、および副主題は、まさにこの時代に求められる教育の方向性を明確に示すものであり、極めて意義深いテーマである。本大会においては、学校経営、教育活動、人材育成など多岐にわたる分野で研究協議が行われる。こうした協議を通して、管理職としての資質や指導力が一層高められ、その成果が各地域の学校に還元されることを大いに期待している。

さて、ここ福岡は、古くからアジアとの交流の要衝として発展してきた地であり、中国大陸や朝鮮半島との交流を通じて多様な文化を受け入れ、独自の伝統と文化を育んできた。温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、海の幸や山の幸など多彩な食文化を誇る地域でもある。本大会にご参会の皆様には、この機会に福岡の歴史と文化、そして食の魅力を存分にご堪能いただき、福岡での滞在が実り多く、心に残るものとなることを願っている。

福岡市長祝辞（要旨）

福岡市長 高島総一郎 様

（代読 福岡市副市長 中村英一 様）

第77回全国連合小学校長会研究協議会福岡大会並びに第77回九州地区小学校長協議会研究大会が、ここ福岡市において盛大に開催されるにあたり、心からお祝いを申し上げる。また、全国各地からご参会の校長先生方を、福岡市民を代表して心より歓迎申し上げる。

近年、社会は急速に変化しており、教育現場においても子どもたち一人一人が自ら考え、より良い社会を築いていく力を育む教育の重要性が一層高まっている。このような時代にあって、



全国の校長先生方が教育の在り方について研究と協議を重ね、実践を共有される本大会は、極めて意義深いものである。先進的な教育実践に学び、相互に議論を深め、今後の日本の教育をさらに前進させる契機となることを期待する。

福岡市においても、未来を担う子どもたち一人一人が自分らしく生き生きと輝き、夢を描きながら心身ともに健やかに成長できるよう、教育環境の充実に努めている。具体的には、きめ細かな教育相談体制の整備、学びを支援するＩＣＴ環境の推進、地域と連携した学校運営など、多角的な取組を進めている。校長先生方においては、教職員をまとめ、学校運営の中核を担いながら、地域社会と連携し、子どもたちの学びと成長を支えておられる。そのご尽力に対し、心から敬意を表するとともに、本大会での研究協議が皆様の知見を更に深め、全国の教育現場を支える新たな力となることを心より期待している。

この機会に、歴史と伝統が息づく博多旧市街、美しい街並みや神社仏閣、そして博多の味覚を代表する屋台や郷土料理など、福岡ならではの文化と食を存分にご堪能いただければ幸いである。

文部科学省講話（要旨）

文部科学省初等中等教育局主任視学官 田村 学様

学習指導要領教育課程の基準の改訂に焦点を当てて話を進める。主要なキーワードは、「多様な子供たちの深い学びを確かなものに」である。令和6年12月の大臣審問を受けて先日論点整理がまとめた。論点整理では多様な子どもたちの「深い学び」を確かな形で実現しくために、①深い学びの実装、②多様性の包摂、③実現可能性の確保を三位一体で実現していく方向を目指している。



1 学習指導要領の構造化・表形式化

現行の学習指導要領は法令文のため一文で書かれているが、構造化することで分かりやすく、使いやすい表形式のようなものができるのではないか。表形式になれば、①要素が分かりやすくなる、②関係性が見える、③俯瞰して捉えることができるなど良いことがある。

2 柔軟な教育課程

目黒区では研究開発学校として授業の1単位時間を小学校40分、中学校45分で実施することに挑戦し、余白時間は学校の固有な教育活動や、教員研修に充てるなどの取組が行われている。渋谷区では各教科を10%ほど減らすことができる時数特例校として総合的な学習の時間を中心とした探究を200時間以上確保している。このような特別な制度の下でなくとも全国の学校が自分たちの判断で実施できる「調整授業時数制度」といった考えにより、各学校等の固有性や独立性を出せるよう検討を始めている。

3 質の高い探究的な学び

G I G Aスクール構想として情報活用能力を育成しようという議論がある。総合的な学習の時間の中で情報の領域を位置付けることで全体としてもっとパワフルな探究ができるようになるのではないか。中学校では情報・技術科、高等学校では情報科と連動させながら、情報のために探求するというのは本末転倒だと感じる。一方、探究をより充実左折ために情報を使うことは、非常に親和性も高く W i n - W i n の関係になるのではないか。

4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

学習評価に関して若干誤解が生じているところがある。これまで同様、目標に準拠した観点別の学習状況評価をするという方向性に変わりはない。「主体的に学習に取り組む態度」は、知識や技能、思考・判断、表現をハンドリングする極めて重要なものであるが、目標に準拠した評価では難しく、個人内評価にしてはどうか。これまで同様の三観点の評価をするが、学びに向かう力、人間性について今後どういう方向に進めていけばよいかという議論がこの先にある。

5 深い学びのメカニズム

子ども一人一人が個別に学ぶ場面や協働する場面が準備されていたとしても、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」につながってい

なければ本末転倒である。「深い学び」とは、知識・技能が関連付いて構造化されたり、身体化されたりして高度化し、駆動（ドライブ）する状態に向かうことである。一つ一つがつながり（コネクト）、知のネットワーク化（精緻化）された知識は静的にじっとしているのではなく、もっと動的でダイナミズムがあり、少々の悪路を乗り越え、自由自在に動き回ることができる。

6 活用・発揮（アウトプット）と長期記憶

活用・発揮（アウトプット）するには、授業における「話す」「書く」の質と量が鍵である。そのためにも教師による、より質の高いインプットが求められる。アウトプットすることで頭の中の知識はどんどんつながり、ネットワーク化する。つながった知識は結びついているため剥がれ落ちにくく、長期記憶となる。繰り返しや反復がいらないというつもりは毛頭ないが、繰り返しや反復しか知らない教師とアウトプットが大事だと分かっている教師では授業のバリエーションが違ってくる。

アウトプットにおける音声言語は広がりやすいが曖昧さが残る。文字言語は自覚しやすいので「深い学び」には近道である。しかし、短い文字言語では「深い学び」とはならない。長めの文字言語が大切である。

7 探究のプロセス

デジタルの利活用と全国学力学習状況調査の相関は明確ではないが、「主体的・対話的で深い学び」を実施している学校において効果が出ている。探究のプロセスの充実こそ、各教科の力を確かにし、活用・発揮（アウトプット）は子どもたちの資質・能力と学力に大きく寄与する。探究のプロセスと情報活用能力、デジタルの利活用は親和性が高い。

8 カリキュラム・マネジメント

適切な教育課程の編成については、学習指導要領総則1の1に示されている。また、総則1の5ではカリキュラム・マネジメントの三つの側面が記されている。「カリキュラム・デザイン」の縦軸は総則2の1、横軸は総則2の2であり、その中心に総合的な学習（探究）の時間がある。今は縦軸・横軸を編み込んで教育課程を編成するとき、学校や子どもたちの実態に応じて進めることに加え、多様な子どもたちも視野に入れるようになっている。多様な子どもたちに対して工夫する際、これまででは授業水準で

行っていることが多かったが、これからは教育課程全体で考えていくことができ、可能性が広がる。

第1日 全 体 会

- 1 日程説明 大会実行副委員長 子椎葉 義明
- 2 運営委員会構成
- 3 本部報告 全連小対策部長 飯塚雅之
- 4 大会主題・研究課題趣旨説明
大会研究部長 原尾宏志
- 5 大会宣言に関する提案
大会宣言文起草委員長 刀坂順子

本部報告（要旨）

全連小対策部長 飯塚雅之

5月22日に第250回理事会において、会長・副会長・常任理事の互選及び監事の選出が行われた。第77回総会に提案される5つの議案が承認された。

5月23日に第77回総会・研修会が開催され、あべ俊子文部科学大臣（代読：今村文部科学戦略官）、坂本雅彦全国都道府県教育長協議会会長（代読：柿沢事務局長）、及び三上裕三全国連合小学校長会顧問代表より祝辞を賜った。総会では、全ての議案が承認された。研修では文部科学省初等中等教育局教育課程課長 武藤久慶氏より「生成AI時代・GIGA時代の学習指導要領の検討」と題して講演と3課による行政説明が行われた。

6月に事務担当者連絡協議会、合同部会・合同委員会が開催され、対策・調査研究・広報・庶務・会計の各部及び各委員会の活動が本格的に始動した。

6月30日に広報担当者連絡協議会が開催され、全連小広報活動の説明や各地区の広報活動に関する情報交換を実施した。

7月8日に文部科学省・財務省・総務省に対して、令和8年度の教育政策並びに予算に関する要望活動を行った。主な要望事項は以下のとおりである。
①優秀な教育職員の人材確保及び待遇改善
②教員定数の拡充と長時間勤務の是正
③学習指導要領改訂に伴うカリキュラム・オーバーロード防止策
④GIGAスクール構想推進のためのICT環境整備
⑤地域・学校間格差の是正と安全対策の強化
⑥教職の魅力向上及び職場環境改善である。また、同日午後

には岩手・宮城・福島の震災3県小学校長会長との合同連絡会を開催し、東日本大震災から14年を経た現状と課題について報告を受けた。学校統合の進行、地域コミュニティの弱体化などの課題が共有され、引き続き人的・財政的支援や防災・復興教育の継続、風評・風化防止の必要性を確認した。

7月9日に小学校長会長連絡協議会を開催し、福岡大会及び次回北海道大会の報告、被災地からの報告がなされた。文部科学省初等中等教育局児童生徒課長 千々岩良英様より、「いじめ・不登校を取り巻く状況と校長先生方へのご期待について」と題する行政説明が行われた。

9月26日に三地区対策・調査担当者連絡協議会を東京で開催し、今後福岡・大阪でも開催予定である。

昨日10月15日に福岡国際会議場において、常任理事会並びに第251回理事会を開催し、諸案件について協議した。

大会主題・研究課題趣旨説明

大会研究部長 原尾宏志

ここ福岡で70年ぶりとなる全国連合小学校長会研究協議会を開催することを心より感謝申し上げる。本大会は、昨年度の徳島大会から引き継いだ校長にとって最大の学びの場であるという意義を踏襲し、本日より2日間の日程で開催する。大会主題と副主題について、全国連合小学校長会は、時代の変化とともに明らかになる教育課題や経営課題を解決するため、真摯かつ謙虚に研究と実践を積み重ね、令和2年度より大会主題とし、各大会の成果と課題を引き継ぎながら、研究を進めている。福岡大会では、この大会主題を受けた副主題を設定した。誰かのため、社会のためにという意識に基づいた主体的、創造的な働きかけを「志」。世界を視野に未来を見据えて次代を担う宝としての子どもの捉えである「人財」。この2つをキーワードとし、子ども一人一人が持続可能な社会と、幸福な人生を切り拓き、必要な資質能力を身に付けることが重要である。背景には、未来社会によりよい影響をもたらす先端技術の高度化や、人工知能の急速な発展、一方では激甚化する自然災害や紛争によって基本的な価値が揺らぐという現代社会の状況がある。困難といわれる時代だからこそ、持続可能な未来社会を豊かに健やかに

生き抜くことができるようする主体的な社会の創り手が求められている。社会の創り手として変化に向き合い、他者と協働して課題を解決したり、膨大な情報の中から本質を見極め、それを再構成して新たな価値を生み出したりする資質能力を育むことが求められる。自分の良さや可能性を認識し、他者の存在を尊重する態度を養うことも重要である。更に利他性や社会貢献意識、協働、自己実現といった数字化しにくい非認知能力を獲得できるよう促すことも必要不可欠である。だからこそ、私たち校長は、先行き不透明で、将来が予測困難な時代の今、教育の不易を強く意識するとともに、時代の変化に合わせて必要な改善をし続けなければならない。これを基盤に、持続可能な社会と幸福な人生の創り手となるために必要な資質能力を育むという学校教育に課せられた役割を果たすとともに、教職員が自らのキャリアプランに応じて資質能力を向上させ、学び続けることができる環境づくりにも努めるべきだと考える。つまり、私たち校長も人財を育成する志をもち続けなければならない。

次に、分科会協議会では、発表された研究に対し、校長の果たすべき役割と指導性を明らかにするために、研究の視点と協議を柱に沿ったグループ協議を実施していただく。このグループ協議では、率直な意見交換を通じて、それぞれの学校が抱える重要な課題を共有し、解決の一つを探ることが期待される。そして、分科会協議の最後には大学教授や福岡県教育委員会主幹指導主事などによる指導を受け、これにより、発表者はもちろん全ての参加者にとって、発表や協議の内容に価値と意義がもたらされ、実りある分科会になる。

最後に、明日の講演では、聖家族贖罪聖堂、通称サグラダ・ファミリアの彫刻家である外尾悦郎氏より、「志す」という演題でお話しいただく。外尾様は単身スペインに渡り、アントニ・ガウディ氏が仕掛けた聖家族贖罪聖堂の彫刻家として多くの作品を思い描き、その完成に向けて大きく貢献されている。世界の舞台に活躍されている生き方や考え方には、夢を追い続ける力、そして志をもって挑戦する姿勢が現れている。校長としての私たちそして未来を創る子どもたちにとって、かけがえのないメッセージをいただけます。

◆分科会の研究課題及び研究の視点

領域	分科会	研究課題	視点 ①全国ブロック ②九州ブロック
I 学校経営	1 経営ビジョン	創意と活力に満ちた学校経営のビジョンの策定	①未来を切り開く力を育む学校経営ビジョンの策定 ②学校経営ビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進
	2 組織・運営	学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校運営	①学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくり ②組織を活性化させるための具体的な方策の推進
	3 評価・改善	学校教育の充実を図るための評価・改善	①学校経営の組織的かつ継続的な改善に向けた学校評価の充実 ②教職員の資質・能力の向上に向けた人事評価の工夫
II 教育課程	4 知性・創造性	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進	①主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善の推進 ②知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善
	5 豊かな人間性	豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメント	①豊かな心を育む道徳教育の推進 ②多様な人々と協働しながら、よりよい社会を創る人権教育の推進
	6 健やかな体	健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進	①生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育てる教育活動の推進 ②健康で安全な生活を営む実践力を育てる教育活動の推進
III 指導・育成	7 研究・研修	学校の教育力を向上させる研究・研修の推進	①学び続ける教職員を育成する研究・研修体制の充実 ②「チーム学校」の運営意識をもたせる研修の推進
	8 リーダー育成	これからの学校組織を担うリーダーの育成	①学校教育への確かな展望をもち、優れた実践力と応用力のあるミドルリーダーの育成 ②社会の変化を的確に捉え、自ら学び続ける管理職人材の育成
IV 危機管理	9 学校安全	命を守る安全教育・防災教育の推進	①自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進 ②家庭や地域・関係機関との連携・協働を図った組織的・計画的な防災教育に関する取組の推進
	10 危機対応	様々な危機への対応と未然防止の体制づくり	①いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり ②教職員の高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり
V 教育課題	11 社会形成能力	持続可能な社会を創造する力を育む教育活動の推進	①持続可能な社会の創造に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進 ②地域に愛着をもち、よりよい社会の創造に貢献する力を育むキャリア教育の推進
	12 自立と共生	自立と共生の実現に向けた教育活動の推進	①持続可能な社会と幸福な人生を創る力を育てる特別支援教育の推進 ②多様な他者と協働する資質・能力を育む教育の推進
	13 社会との連携・協働	家庭や地域等との連携・協働と学校段階等間の接続・連携の推進	①家庭や地域等と連携・協働を深め、持続可能な社会の実現をめざして創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進 ②成長の連続性を生かした学校段階等間の接続・連携の推進

第2日 全 体 会

1 研究協議のまとめ

大会研究部長 原尾宏志

2 大会宣言文決議

大会宣言文起草委員長 刀坂順子

研究協議のまとめ

福岡大会研究部長 原尾宏志

1 分科会協議

第1分科会「経営ビジョン」では、組織を効果的に動かしていくエビデンスを生かした校長の決断とファシリテート・コーチングを軸としたビジョンの共有を確認した。

第2分科会「組織・運営」では、ミドルリーダー育成を通した学校チームの自走及び児童と教職員双方のエージェンシーの重要性を確認した。

第3分科会「評価・改善」では、地域との協働や若年層の育成につなげるという改善のためのリーダーシップの重要性を確認した。

第4分科会「知性・創造性」では、教育連携の組織化・システム化、校長の個性を發揮したカリキュラム・マネジメントの重要性を確認した。

第5分科会「豊かな人間性」では、学校・地域が一体となり組織的・継続的に人間教育に取り組むための校長のマネジメント能力等の重要性を確認した。

第6分科会「健やかな体」では、地域・保護者との連携、学校の特色や強みを生かしたカリキュラム・マネジメントにおける校長の指導力の重要性を確認した。

第7分科会「研究・研修」では、教員の学ぶ意欲と「チーム学校」への参画意識向上のため、教員のこの学びを学校組織に生かすことの重要性を確認した。

第8分科会「リーダーの育成」では、これから学校組織を担う次世代リーダーを育成するための方策を進める校長のリーダーシップの重要性を確認した。

第9分科会「学校安全」では、人が変わっても

継続するシステムづくりや時代の変化に応じた取組を生み出す校長のリーダーシップの重要性を確認した。

第10分科会「危機対応」では、子どもたちの命と安全を守るために適切な対応と、組織・連携づくりを進める校長リーダーシップの重要性を確認した。

第11分科会「社会形成能力」では、子どもたちが志をもち、自ら考え、主体的に取り組む教育活動を組み立てるために校長としてのビジョンの重要性を確認した。

第12分科会「自立と共生」では、児童の自立と共生の実現に向けて、明確かつ根拠のあるビジョンを示すことの重要性を確認した。

第13分科会「社会との連携・接続」では、地域とともにある学校づくりや学校段階間の円滑な接続及び連携を推進する校長のリーダーシップの重要性を再確認した。

2 まとめ

本大会を通じて示された共通のキーワードは、「共創」「信頼」「ビジョン」「リーダーシップ」である。これらを糧にリーダーシップの一層の発揮と志をもった学校経営を推進していくことが求められる。本大会にご協力いただいた全ての皆様に心より感謝申し上げるとともに、福岡大会で得られた成果が、次年度の全国大会、そして日本の小学校教育の更なる発展へつながることを強く期待する。

大會宣言

全国連合小学校長会は、結成以来77年にわたり、我が国の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を重ね、着実にその成果を上げてきた。

第72回大会からは、大会主題を「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」とし、各大会の特色を生かしながら、その実現に向け、組織をあげ実践的に研究を進めてきた。

子どもたちを取り巻くこれからの中は、少子高齢化、グローバル情勢の混迷、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成AI等デジタル技術の発展等といった大きな変化があいまって、社会や経済の先行きに対する不確実性がより高まっている。また、不登校児童や特別支援教育の対象となる児童、外国人児童等、教育的支援を要する子どもが増加しており、子どもたちが抱える様々な課題が複雑化・困難化するとともに、過疎化や情報化など家庭や地域をめぐる状況も大きく変化している。

このような社会の変化や子どもの多様化において教育の果たす役割が再認識された。子どもたちが今後も未来社会を豊かに健やかに生き抜くことができるようになるため、一人一人が自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら、様々な社会的な変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる力を身に付けられるようになることが求められている。

今大会は、他者のため、社会のためにという意識に基づく主体的、創造的な働きかけを「志」と定義し、世界を視野に未来を見据えて次代を担う宝としての子どもの捉えである「人財」の育成を目指し、研究副主題「志をもち 多様な他者と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進」を設定した。

私たち校長は、社会の変化を見極め、将来の展望を明確にもち、小学校教育の更なる発展に全力を注ぎ、国民の期待に応えようとするものである。

ここに、第77回全国連合小学校長会研究協議会の総意に基づき、次の決意を表明しその実現を期する。

記

- 一 自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
- 一 志をもち 多様な他者と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進
- 一 「生きる力」の育成を目指した創意工夫ある教育課程の編成・実施・評価・改善
- 一 道徳教育を中心とし、自他の命の尊厳や人権感覚の醸成を重視した教育の充実
- 一 主体的に判断・行動し、命を守る子どもを育成する防災教育の推進
- 一 学校の自主性・自律性の確立と家庭・地域等との連携・協働による教育活動の充実
- 一 安全で安心できる教育環境づくりと共生社会の実現に向けた教育の充実
- 一 校長自らの研鑽と、教職員の資質・能力の向上を図る現職教育の充実
- 一 教育の質を向上させるための「学校における働き方改革」の実現

右、宣言する。

令和7年10月17日

第77回全国連合小学校長会研究協議会福岡大会

講演(要旨)

志す

講師 聖家族贖罪聖堂彫刻家 外尾悦郎 氏

福岡出身の私にとって九州というこの土地柄が「オリジン」であり、ふるさとと言ってよい。「オリジン」という言葉が今日の話の骨骨と考えていただきたい。

140年以上つくり続けられているサグラダ・ファミリアの約3分の1にあたる47年間に渡って私が、仕事ができている秘密は、この「オリジン」と



いう言葉に強く影響している。まず一言申し上げる。ふるさとを強くもっている人は、いくらでも遠くへ行ける。これは私が70年以上生きてきた一つの結論である。

ガウディの建築思想と構造美

ガウディは「美とは、真実の光の輝き。その構造体を削ぎ落した形こそ、真実であるから美しい」と言っている。高さ5mの植物の芽をガウディの図面どおりにつくっていくと、石の板を薄く掘らなくてはならない。非常に弱くて脆くなる上に、そこに薦を這わせるのが疑問であった。構造や装飾を分割しすぎて問題が増え、解決策が見付からなかった。我々は構造の問題と装飾的な問題を別々に考えていたが、ガウディ

イは統合し、いくつもの問題を一つの答えで解決しようとした。問題がいくつあっても、答え一つで解決することができるということをガウディから教わった気がする。

生誕の門の15体の天使

生誕の門の15体の天使のうち1体だけ選ぶことになり、私は一番難しいものを選んだ。人生で唯一のチャンスがあるとしたら、できるかどうか分からぬが一番難しいものに挑戦してみようと思ったのだ。その結果、完成した彫刻を見たバルセロナの住民から、他の彫刻をつくるための資金が集まった。先が読めない仕事だが、良いことをすると多くの人が協力してくれるようになつた。

ガウディの合理性と独創性

ガウディが資金を出してつくった学校が、サグラダ・ファミリア小学校である。安い材料でしっかりとした建物にしようと考え、薄いレンガを屏風のようにジグザグにして屋根を支えようとした。ガウディの建築は独特の形をしているが、本当にそうしたいと思ったらその方法を考えるのが彼である。本当の合理性というのは今ある方法でないとできないというのではなく、行きたいところへ、自分で最高の道を探していくこと。今まであることを踏襲するのではなく、全く違う形、方法を編み出していくことこそ合理性であるとガウディが教えてくれる。

サグラダ・ファミリア建設現場の安全性と象徴の力

サグラダ・ファミリアは140年以上つくり続けられているが、これまで一度も死亡事故がない。ガウディはサグラダ・ファミリアの敷地に小学校をつくった。朝、職人が子どもを連れて仕事にやってくる。そして、仕事が終わって連れて帰るまでの間、子どもが成長する姿を幸せに感じる。これが象徴。人は自分の脳の中で自分を支配しているのではない。自分の意識の中にあるものが、自分を使って動かしている。子どもを朝連れてきて、午後連れて帰ることが、無意識のうちに危険なことやぶつかり合いをしてはいけないと職人に深呼吸させ、安全につながったと思う。死亡事故がないのは、ガウディが小学校をつくったおかげである。

果実と葉っぱの象徴性と言葉の意味

昔は白黒写真しかなかったが、世の中が白黒だったわけではない。しかし、サグラダ・ファミリアは白黒だった。そこに私は色を付けた。大窓の上に乗っているフルーツは熟した果実でなければならない。熟した果実には色が付いているはずである。私は多くの人から非難される

のではないかと内心怖かったが、どうしても色を付けなければならないと思い、高さ3mの色付きの彫刻を完成させた。これがきっかけとなり、若者たちがサグラダ・ファミリアを訪れるようになった。

大窓の上にはいつもフルーツが乗っている。神の世界では自ら光を放つことがあるだろうと思い色を付けたが、果実と葉っぱが分かれているものもあれば、一緒になっているものもあった。この意味が、ガウディの弟子でも分からなかった。私は意味が分からないと作品をつくることはできない。そこで、日本人がサグラダ・ファミリアで働く意味を見付けた。

「言葉」という意味をもつ単語は世界中にあるが、「葉っぱ」の意味が含まれている言葉は日本以外にない。日本だけが、葉っぱのやり取りをしている。葉っぱのもっているエネルギーが人の心に落ちた時に実となり、それが熟して種ができ、次の葉っぱができて伝わっていく。自然を深く理解した日本文化の象徴ではないかと思う。生きた葉っぱをやり取りしながら、それを受け取った人がエネルギーをもらい、新しい果実ができる、魂が豊かになり、熟していく。つまり、果実というのは人々の魂の象徴である。私たちは肉体をもっているが、魂がなければその肉体は死んでいるも同然である。大切なやり取り、それをここで象徴しているから日本人でないと意味が分からなかった。日本人がサグラダ・ファミリアで働く理由がここにある。

異文化との関わり

私は一心不乱に仕事をしていたが、周りの職人たちは「外尾は働きすぎている」と言って、「タバコを吸え」「ビールを飲め」などと勧めてきた。とても迷惑だったが、日本人と地中海の人々との間には文化の違いがあったから仕方がない。しかし、あまりにもしつこく誘ってくるので、ある時、博多弁で一喝したら思いが相手に通じた。自分を救ってくれたのがふるさとであった。思えば、私の周りは全て異文化であり、自分が正しいと思っても多勢に無勢でなかなか聞いてくれない。そんな時、言っても分からぬときは、相手をじっと見つめる。そうすると通じる。迎合するのは簡単だが、折れてはいけないところで折れてはいけない。自分の意思を曲げてしまっていたら、私は47年間やってこられなかっただろうと思う。

ふるさとが支える異文化挑戦

最近、実家から60年前の日記が出てきた。書かれていたことが今と変わらなかつたので自分は成長していないと思ったが、友人はそれこそ

が成長だと言ってくれた。

子ども時代に教え、育ててくれたふるさと。疑問も生まれたが、それは何かを知ったおかげであり、今となっては感謝しかない。

結論を言う。皆さんが「ふるさと」である。日本の学校を「ふるさと」にしてほしい。子どもたちがぶつかり合ったり、よくないことをしたりした時その子がきちんと育つように、世界でたった一人になったとしても自分の背骨を真っ直ぐにしていられるように。ふるさとがあると思える日本人を育ててもらいたい。物理的なものをふるさとと言っているのではない。先生方お一人お一人がふるさとであれば、子どもたちは必ず戻ってくる。遠くへ、どんなに遠くへ行ったとしても、いつもその人の心の中にはふるさとが生きている。自分の考えに賛同する人が誰もいなくても、ふるさとが自分の中でしっかりと守られていれば世界のどこへでも行ける。皆さんに申し上げたいことは、お一人お一人、校長先生、お仲間、学校、そこがふるさとであるべきだということ。

ガウディの思想とオリジンへの回帰

彫刻を考えるとき、私は「オリジン」に戻る。「オリジン」はガウディではない。ガウディが見ていた方向が「オリジン」である。私の仕事はガウディを見ているのではない。ガウディを本当に知りたいのであれば、ガウディを見ないことである。ガウディが見ている方向を見れば、ガウディが出していない答えすら私は掴み取ることができるのである。

生きた言葉

枯れ葉はエネルギーをもっていない。深いところに根っこを張るからこそ、枝の先の葉っぱに栄養が届く。生きた葉っぱは光合成をしてエネルギーを作り出し、花や実に伝えていく。枯れ葉、つまり昔の人が編み出したノウハウや、何かの指導書に書いてあることには根っこが付いているのだろうか。根っこというの、それを見た人がもう一度それを生かし、返す。そこで初めてその言葉は生きていく。つまり、自分のフレッシュなエネルギーが、生きた言葉であり、葉っぱであり、それが人にエネルギーを伝える。子どもたちに伝わるのだ。どんなよい言葉も、自分の耳に入ったまま相手に伝えるのであれば、それは枯れた葉っぱとなる。拙い言葉でも、生きている自分の言葉で伝えなければエネルギーにはならない。少なくともそれを受け取った子どもたちの栄養にはならない。苦悩の中から自分の言葉を見付けた人々の言葉が、初めて人に栄養となって伝わる。

自己の戦いと自己批判の重要性

2,000年もの長い間、ほとんどの象徴は決まっているが、私の仕事はそこになかったものをどんどんつくり出していくことである。後々訂正がないように考え抜くとき、最大の敵は自分でなければいけない。自分に問いかけ、答えが見付からないときは考えを変えなければならない。他人から疑問を投げかけられたとき、私は負けるのである。孤独な戦いが続いている。

多様性を育む喜び・感謝・許し

多様性を育むためには、選定をしないこと。誰も完璧人間はない。多様な子どもたちがいることを喜ぶ。人類の長い歴史の中で自分と同じ人は一人もいない。これこそ自然の力であり、無限の多様性である。一人一人が違うし、どの人が一番正しいか分からぬ。これを喜び、自然の力に感謝する。そして、最後に許す。この一つでも欠けたら、人類は恐らく破滅に向かう。子どもの観察力と支える大人

子どもたちは人生を始めていないように見えるが、もう真っ先に人生のど真ん中にいる。彼らほど観察力のある人生を送っている瞬間というものはない。彼らは観察しても、学んでいないから言葉が見付からないだけであり、苦悩していないように見えるが、実はものすごく苦悩している。大人は一人一人違う子どもたちを別々に考え、その子の感じていること、悩んでいること、涙していることを捉え、包んでほしい。大人になったとき、ふるさとである先生方があの頃包んでくれたなという思い出があれば、苦悩に耐えられると思う。

教育の本質と「ふるさと」の役割

教育とは共生であり、人の喜びを自分の喜びとすることだ。教育とは、自分が生き残るためにものではないと私は考える。生涯、苦悩の中で生きたガウディは誰よりも幸せになりたかった。そのためには、人を幸せにするしかないのだということに気付いた。それも皆さんはやっておられる。心から尊敬する。これからも子どもたちが皆さんのもとへ必ず戻ってくる「ふるさと」をつくってほしい。

閉会式

1 あいさつ	大会会長 松原 修 大会実行委員長 松本 �剛 次期開催地(北海道)代表 田邊芳明
2 閉会のことば	大会副会長 田沢 勝

第251回 理事会 福岡で開催

10月15日（水）午後1時30分～午後4時30分

会場 福岡国際会議場

全体進行 高山 庶務部長

1 開会のことば

八木 副会長

2 会長あいさつ

松原 会長

○福岡大会

福岡大会は校長にとって最大の研修の場である。特別部会の論点整理がまとまった機会に文科省主任視学官から最新の話を伺うことができる。今大会での学びを明日から行動に移していくいただきたい。

○令和8年度文部科学省概算要求事項説明会

「学校と教師の業務の3分類」については、分類しただけでは解決しないこと。復興特別会計が縮小されているが予想外の自然災害への対応も必要であること。学校統廃合に際して教員を減らさずに教科担任制を推進するなどして対応していくことなどをお願いした。

○次期学習指導要領に向けての国の動向

教育課程企画特別部会の論点整理がまとまり、次期学習指導要領は現行の充実・バージョンアップだと考える。デジタル学習基盤と情報活用能力はより強化していく。多様性の包摶については、「多様性を個人及び社会の力に変える観点」という言葉が非常によい。教師に過度な負担・負担感が生じないような実現可能性の確保について要望した。

○プラスの発信をしていく好機

教員の働き方や待遇改善への関心が高まっている今こそプラスの発信をしていく好機である。学力調査の平均点の動向や不祥事などのマイナス情報への先手の対応が必要であり、全国で心を一つにして取り組んでいく。

3 報告

(1) 会務・事業・活動の大要 高山 庶務部長

(2) 会計報告 室伏 会計部長 ・基金管理状況 ・負担金納入状況

(3) 研究大会について

・第77回福岡大会 松本 大会実行委員長
開催日：令和7年10月16日・17日
福岡サンパレス・福岡国際会議場にて開催

・第78回北海道大会 田邊 北海道会長

開催日：令和8年10月1日・2日

大会案内等を準備中（2月下旬頃発表）、2日目講演会の講師紹介、参加協力の依頼

(4) 要望活動について 飯塚 対策部長

○「小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算」について7月8日に文部科学省、財務省、総務省に10項目の要望活動を行った。12月に小学校教育の充実改善に関する要望書を衆参両院の国會議員に届ける予定である。

(5) 震災等災害被災県から

○被災3県との連絡報告会 飯塚 対策部長
7月8日に被災3県小学校長会長との合同連絡会を開催した。現状や課題、防災教育等について報告があった。今後も同様に継続する。

○福島第一原発、被災地域視察・懇談会報告

赤木 常任理事

9月18・19日、計50名が震災遺構の浪江町立請戸小学校、東日本大震災・原子力災害伝承館、福島第一原子力発電所を視察した。視察は2年後の福島大会にて終了する予定のこと。

○被災県から（岩手県） 金野 県会長

被災地の児童数の減少と学校の統廃合が急速に進む。教育相談をする児童が沿岸部において震災直後の水準とほぼ同じであり、小学校低学年では内陸部との差が顕著であった。

(6) 令和7年度第46回全連小海外教育事情視察 研修報告について 田中 視察団長

(7) 文科省 中教審教師を取り巻く環境整備特別委員会について 高瀬 調査研究部長

4 意見交換

テーマ：中教審特別部会等報告を受けて

○教育課程企画特別部会の論点整理、教師を取り巻く環境整備特別部会について25グループに分かれて話し合い、3グループが報告した。

5 連絡・その他

○広報部から 萩久保 広報部長 速報や刊行物の活用、ホームページについて

6 閉会のことば 田沢 副会長